



JET プログラムを活用した 東川町(北海道)の CIR・SEA の活躍

(一財)自治体国際化協会JETプログラム事業部

東川町の国際交流の取り組み

1985 年、東川町は『心のこもった“写真映りのよい”町の創造』をめざして「写真の町宣言」を行い、『「自然」と「人」、「人」と「文化」、「人」と「人」それぞれの出会いの中』に生まれる感動を大切に、世界に開かれた町づくりに取り組んでいます。「写真の町宣言」以降、「東川町国際写真フェスティバル」や「高校生国際交流写真フェスティバル」といった写真を通じた世界への文化発信だけでなく、姉妹都市（カナダ：キャンモア町、ラトビア：ルーイエナ町）・文化交流協定都市（韓国：ヨンウォル郡）の提携など、国際交流に力を注いできました。また、町内には常時 200 人を超える留学生が滞在し、2009 年設立の町立日本語学校の修了生は 2,000 人を超えています。さらには現地企業に運営委託する

形で日本語留学生支援事務所を台湾・タイ・中国・韓国・ベトナムに設けてよりスムーズな受入態勢を整えるなど、海外諸国との交流はますます盛んになっています。そんな東川町は JET プログラムも最大限に活用し、2010 年以降、外国青年の任用数を段階的に増やしてきました。

東川町の JET プログラム参加者

2018 年 1 月現在（13 カ国から計 15 人）

ALT 4 人	カナダ、アメリカ、オーストラリア、フィリピン
CIR 8 人	韓国、ラトビア、ウズベキスタン、カナダ、インドネシア、ベトナム、中国、タイ
SEA 3 人	フィンランド：クロスカントリースキー アメリカ：野球 イタリア：バレーボール

高校生国際交流写真フェスティバル 2017
International High School Students' Photo Festival Exchange

バックナンバー 2018 | バックナンバー 2015
Japanese | English | Chinese |

トップページ HOME フェスティバル概要 ABOUT 選抜校 SELECTED 提出作品・投票 SUBMITTED フォトギャラリー GALLERY



東川町が実施する「高校生国際交流写真フェスティバル」のホームページ (<http://i-hsspf-e.hjk.ne.jp/>)



日本ウズベキスタン写真交流展での CIR（右から 2 番目）



世界 4 カ国の料理を東川町民と一緒に作って食べるイベント



高校生に「アングルン」というインドネシアの打楽器を紹介

東川町での CIR の活躍

CIR（国際交流員）は東川町の交流促進課に7人、教育委員会に1人配属されています。姉妹都市・文化交流指定都市との交流事業や写真フェスティバルなどの国際交流イベントにおいて通訳、翻訳、随行を務めるほか、町民向けに母国の料理や言語を教えるイベントを企画運営したり、学校訪問を通じてさまざまな外国人・外国文化と接する機会を児童・生徒に提供したりするなど、町民との距離が近い存在となっています。

東川町での SEA の活躍

SEA（スポーツ国際交流員）は教育委員会に配置され、町内の小学校4校、幼稚園・中学校・高校各1校の体育系授業や少年団、部活動などに携わっています。児童・生徒たちは、SEA とは英語も使って意思疎通を図っており、外国人とのコミュニケーション能力の向上と同時に、指導力に優れた人材から直にトレーニングを受け、スポーツ技術を養っています。

クロスカントリースキーにおいては、旭岳という日本で最も長い期間滑走できるスキーコースがあるのに対して十分普及しているとはいえませんでした。町で少年団を立ち上げ、母国で100年以上の歴史がある名門スキークラブで長年にわたり講師を務めた SEA が関わることで、子どもたちの間で馴染みの深いスポーツに変わりました。野球では、それまで保護者主体の指導だった小学生の野球少年団、中学生の部活動などに、野球大国アメリカの少年野球リーグ公認のコーチング資格を持つ SEA が指導にあたることで、育成・強化を図っています。

さまざまな国からの JET プログラム参加者

東川町では、13カ国から15人を招致することで、町の目標である開かれた町づくりを実現させています。一つのイベントに複数の国からの JET プログラム参加者が関わることで、日本との違いだけでなく、外国間の文化の違いにも触れることができ、これはさまざまな国から招致しているからこそできることです。東川町のように、さまざまな国から JET プログラム参加者を招致し、積極的に国際交流を進める地方自治体が増えることを期待します。



町内で毎年行われる「くらし楽しくフェスティバル」に母国（5カ国）の料理を出品する CIR



体育の授業に講師として訪問したフィンランドからの SEA



少年団で小学生と野球を楽しむアメリカからの SEA



13カ国からの15人の JET プログラム参加者